

令和元年 5月30日

松阪市議会

議長 中島 清晴様

報告 公明党 松岡恒雄

## 行政視察報告書

標記の件について、下記のとおり行政視察を行いましたので、その内容等を報告します。

### 記

1. 視察の日程 令和元年5月20日(月)～5月22日(水)
2. 視察先 兵庫県高砂市 香川県高松市 高知県高知市
3. 会派名 公明党
4. 参加議員 代表 西村 友志、松岡 恒雄、山本 節
5. 報告書作成 松岡 恒雄
6. 視察項目
  - I. 兵庫県高砂市 5月20日(月)
    - 1) 文化振興によるまちづくりについて
  - II. 香川県高松市 5月21日(火)
    - 1) 「多核連携型コンパクト・エコシティ」を目指した都市計画について
  - III. 高知県高知市 5月22日(水)
    - 1) 生活困窮者自立促進支援事業について

行政視察報告書		報告日	令和元年5月30日	
		会派名	公明党	
		報告者	松岡 恒雄	
概要	日程	令和元年5月20日 13時30分～15時30分	視察先	兵庫県 高砂市
	視察事項	文化振興によるまちづくりについて		
	担当部署	高砂市 健康文化部 くらしと文化室 文化スポーツ課		
	視察目的	豊かさや幸福の実感、住んでいることに誇りが持てるまちとするため、謡曲「高砂」の振興や「高砂学」の講座の開催等のくらしに密着した文化振興を学び松阪市に反映したいため。		
内容	視察要旨	<p>(1) 生活文化都市 高砂</p> <p>H. 13. 2月 文化芸術振興基本法（現：文化芸術基本法）が制定。謡曲「高砂」ゆかりの高砂市で第4次高砂市総合計画にて『郷土に学び 未来を拓く 生活文化都市 高砂』を掲げた。</p> <p>なぜ、文化なのか？</p> <p>①文化に親しみ、活動することは、感性を豊かにし心と体の健やかさ、暮らしの豊かさをもたらす。</p> <p>②市民が活動を通じ理解、尊重しあう風土を育むことで地域への愛情や絆を深める。</p> <p>(2) 文化振興条例及び基本方針</p> <p>H. 23. 3月 文化振興に加え、文化を活かしたまちづくりを市全体で取り組んでいくことを目的に、高砂市文化振興条例を制定（H. 23. 4月施行）⇒文化振興審議会の設置</p> <p>H. 25. 3月 「高砂市文化振興基本方針」を策定し、関連施策を総合的・計画的に推進。</p> <p>設定期間：H. 25年度から10年間。H. 30年度に一部改訂を行う。</p> <p>(3) 実施計画の評価・検証</p> <p>H. 30年度175の取り組み⇒年2回文化振興審議会にて評価・検証⇒担当課へフィードバック</p> <p>(4) 主な文化施策</p> <p>■高砂文化教室『高砂学』⇒中心的事業としてH. 23年度より開始。H. 26年度から「えーとこ、ぎょーさん！高砂」をテーマに講座編4回、活動編7回、謡曲編5回を開催。</p> <p>※H. 26に内閣府の地方分権改革事例30として取り上げられました。</p> <p>【高砂学 活動編】自然観察会、まち歩き、高砂染め体験、浜のかあちゃん料理教室、夏休み子ども寺子屋、竜山石でランタン作り、英語でまち歩き、【高砂学 謡曲編】</p> <p>■高砂こども狂言ワークショップ</p> <p>次代を担う子どもたちに、古典芸能である能狂言に触れる機会を設け、文化を大切にすることを育むことを目的としている。昨年園児781名、先生76名に鑑賞・体験してもらう。</p> <p>■高砂市美術展</p> <p>H. 27年度より約14年ぶりに復活。市内外より日本画、洋画、書道、写真、彫塑、工芸の5部門の入選作品を展示し昨年度は出品数275点、入選数192点。ロビーコンサートも開催。</p> <p>(5) 今後の展望</p> <p>①まちが誇れる文化の次世代への継承の推進②行政と市民、団体との連携の強化による、まちの活力の創出③文化活動の振興と文化によるまちづくりの推進</p> <p>目指すべき姿⇒文化を大切にし、ふるさとを愛する人が集うまつ『高砂』</p>		
	歴史遺産	①国指定史跡 石の宝殿及び竜山石採石遺跡 ②県指定文化財（史跡）工楽松衛門旧宅		
	所感	<p>謡曲「高砂」をシンボルとして平成30年度は、175事業を関連付けながら推進しており、その中で、一際気になるのが国指定史跡・石の宝殿及び竜山石採石遺跡。縄文時代から採石され古墳の棺に利用されたり、生活に密着した竜山石の存在は、まさに地域の宝物であると感じる。素材が石であることから、いかなる製品開発も可能であると言える。</p> <p>「文化を愛する、想像する、育てる」…松阪市のまちづくりに反映したいと強く感じた。</p>		

行政視察報告書		報告日	令和元年5月30日	
		会派名	公明党	
		報告者	松岡 恒雄	
概要	日程	令和元年5月21日 13時30分～15時30分	視察先	香川県 高松市
	視察事項	『多核連携型コンパクトエコシティ』を目指した都市計画		
	担当部署	高松市 都市整備局 都市計画課 住宅・まちづくり推進室		
	視察目的	超高齢社会においてもまちが活力を失わず、市民がいきいきと暮らせるため、福祉、環境、経済等総合的な視点からのまちづくりを形成している。その在り方を学び、松阪市に反映したいため。		
内容	視察要旨	<p>■なぜ、計画が必要なのか？</p> <p>H. 16. 5月に市街化区域と市街化調整区域の区分を廃止⇒低密度な拡散型都市構造が進む。  ⇒財政の圧迫など、健全な自治体経営に支障をきたす可能性がある。</p> <p>(1) 高松市の目指す将来都市構造（都市計画マスタープラン）</p> <p>コンパクトなまちを目指すことにより、人が行きかう賑わいあふれるまちが形成され、将来的に発展を支える基盤を形成することにつながる。</p> <p>(2) 「コンパクト・プラス・ネットワークで繋がる ひと 地域 未来」⇒まちづくりの理念</p> <p>①ひととひとが繋がる⇒地域コミュニティの再生 ②ひとと地域が繋がる⇒大学等の魅力向上  ③ひとと未来が繋がる⇒総合センターの整備・地域包括ケアの構築  ④地域と地域が繋がる⇒市内を移動しやすい交通利便性の確保  ⑤地域と未来が繋がる⇒公共施設の統廃合、道路修繕等の財政負担軽減</p> <p>(3) コンパクト・エコシティの地域区分、拠点の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域交流拠点⇒四国の拠点都市にふさわしい広域的な拠点（駅や公共施設から概ね2km圏内）</li> <li>・地域交流拠点⇒商業・医療・産業環境や行政サービス機能を確保する拠点</li> <li>・生活交流拠点⇒日常生活に欠くことのできない各種サービス機能を提供する拠点</li> <li>・学術研究拠点⇒研究開発や新規産業創出、学術・研究等の都市機能維持・誘導拠点</li> <li>・用途白地地域および都市計画区域外の地域</li> </ul> <p>(4) コンパクト・エコシティ推進事業</p> <p>7つの施策の方針と13の施策に取り組み、PDCAサイクルを活用し、取り組みを展開している。</p> <p>(5) 「高松モデル」を進めるまちづくり</p> <p>コンパクト・プラス・ネットワークの考えの下、鉄道を基軸としたバス路線の再編により、持続可能な公共交通ネットワークを再構築し、集約された公共交通を繋ぐものである。</p> <p>【Q&amp;A】</p> <p>Q. 区域区分を誘導する具体策について</p> <p>A. 立地適正化計画実現に向けて、郊外部の土地利用規制の見直し。インセンティブ施策を検討中</p> <p>Q. 市街地拡大の抑制と区域外への支援の考え方について</p> <p>A. 低密度な市街地の拡大と居住誘導区域外は農業振興を図る地域の為、施策パッケージに位置付け</p> <p>Q. 道路、鉄道網の整備による観光、交流の向上と物流効率の向上を視野に入れている具体策は</p> <p>A. 高松港、高松空港等を連絡する都市軸となる道路整備のほか、新たな公共交通の結節拠点となる新駅整備を重点的に実施している</p>		
		名所	①国史跡高松城跡玉藻公園 ②国特別名勝栗林公園（回遊式大名庭園）③高松中央商店街 総延長2.7kmのアーケード	
	所感	<p>人口417,606人の高松市。H. 16年には市街化区域、市街化調整区域区分を廃止し、H. 20年には都市計画マスタープランを策定している。将来の都市像として多核連携型コンパクトエコシティを位置付け、H. 25年コンパクトエコシティ推進計画を策定、概ね50前後の事業を具現化しながら現在に至っている。事業途上のもの、事業スタート目前のものなど、状況は様々ではあるが5年ごとの見直しを経ながらの作業。事業検証はこれからである。松阪市の都市計画の参考としたいと感じた。</p>		

行政視察報告書		報告日	令和元年5月30日																															
		会派名	公明党																															
		報告者	松岡 恒雄																															
概要	日程	令和元年5月22日 13時30分～15時30分	視察先	高知県 高知市																														
	視察事項	生活困窮者自立促進支援事業																																
	担当部署	高知市 福祉管理課																																
	視察目的	生活保護を受給していないが、経済的に生活に困っている方が松阪市においても増加傾向にある。高知市のモデル事業を学び、松阪市生活相談支援センターへの助言・提案としていきたいため。																																
内容	視察要旨	<p>■高知市の生活保護の実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管内における保護の動向⇒2019年度当初被保護者数：11,621人 被保護者世帯：9,032世帯</li> <li>保護率：35.0% 中核市の中で6番目に高い数値。高知県下唯一の2級地で県内の医療機関の半数以上が高知市内に近在している影響が考えられる。世帯類型としては半数以上高齢者世帯。</li> <li>実施体制⇒福祉管理課、第一福祉課、第二福祉課の三課体制（H.23年度から）</li> </ul> <p>(1) 「生活困窮者自立促進モデル事業」について</p> <p>①H.25.4月、生活困窮者対策として、厚生労働省が生活困窮者自立促進支援モデル事業の募集の際、生活保護に至る前のセーフティーネットの必要性、各種支援制度からこぼれる方々に対する支援の必要性を感じ、高知市社会福祉協議会との運営協議会方式で高知市生活支援相談センター開設</p> <p>②成果・実績等</p> <p>H.25・26年度⇒「総合相談窓口としてすべての相談を断らない」「困難な状況でも当事者への支援をあきらめない」「課題の解決につながるまで投げ出さない」の伴走支援の結果、社会資源の開発・活用の必要性、民間ボランティアも含め関係支援団体の連携が重要との認識が深まる。「こうちセーフティネット連絡会」は26の団体が参加、支援困難事例の検討や情報交換を行う。</p> <p>(2) 「生活困窮者自立支援事業」の現況</p> <p>①相談件数・プラン策定率・支援結果内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>相談件数</th> <th>プラン作成件数</th> <th>プラン作成率</th> <th>支援修了</th> <th>支援中断</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017年度</td> <td>663件</td> <td>216件</td> <td>32.60%</td> <td>91件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>2018年度</td> <td>699件</td> <td>256件</td> <td>36.60%</td> <td>98件</td> <td>2件</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 高知市生活支援相談センターへ委託の住居確保給付金事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>申請件数</th> <th>支給決定件数</th> <th>就職者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017年度</td> <td>7件</td> <td>7件</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>2018年度</td> <td>11件</td> <td>11件</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ハローワークと就労支援</p> <p>(4) 就労訓練事業・就労準備支援事業</p> <p>①就労訓練事業⇒高齢者福祉生活協同組合、NPO法人ワーカーズコープ、NPO法人こうち高齢者福祉事業団と連携。</p> <p>②2018年度末時点⇒8名の就労準備支援プラン策定や支援の実施。「農福連携」へも取り組み中。</p> <p>(5) 家計改善準備支援事業⇒日本FP協会に委託した実施件数：2018年度の63名の支援対象のうち、45名の家計再生プラン策定（国保料の納付に係る実績は、総額14,716,475円となっている）。</p> <p>(6) 学習支援事業⇒NPO法人高知チャレンジ塾へ事業委託、市内10会場にて生保受給世帯及び生活困窮世帯の中学生を対象に居場所の提供と学習支援。2016年度延べ参加13,667名、登録者393名</p>			年度	相談件数	プラン作成件数	プラン作成率	支援修了	支援中断	2017年度	663件	216件	32.60%	91件	4件	2018年度	699件	256件	36.60%	98件	2件	年度	申請件数	支給決定件数	就職者数	2017年度	7件	7件	7人	2018年度	11件	11件	11人
		年度	相談件数	プラン作成件数	プラン作成率	支援修了	支援中断																											
2017年度	663件	216件	32.60%	91件	4件																													
2018年度	699件	256件	36.60%	98件	2件																													
年度	申請件数	支給決定件数	就職者数																															
2017年度	7件	7件	7人																															
2018年度	11件	11件	11人																															
名所	①重要文化財指定 高知城天守、懐徳館（本丸御殿）他 ②坂本竜馬誕生地 ③ひろめ市場 ④はりまや橋 ⑤路面電車																																	
	所感	平成25年度から国のモデル事業としてスタートした生活困窮者自立支援制度の取組みも順調に推移し、成果も出し評価も高い。県庁所在地でもある高知市は県庁舎もすぐ近くにあり、県施設などの多様な機能が容易に確保活用できることもありセーフティーネットワーク構築もある面有利な環境下である。① 総合窓口として全ての相談を断らない②困難な状況でも当事者への支援をあきらめない③課題の解決につながるまで投げ出さない、まさにこの考え方そのものがSDG'sの理念である「誰一人取り残さない」の決意の現れであると感じた。																																

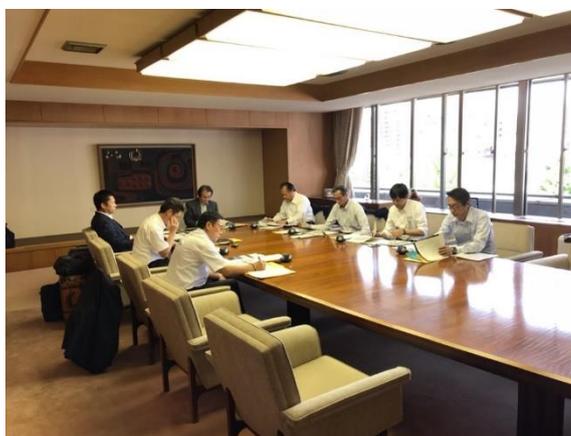
【視察第1日目 高砂市庁舎南館前にて】

【令和元年 5月30日提出】



【視察第2日目 高松市議会議場にて】

【視察第2日目 委員会室にて】



【視察第3日目 高知市役所本町仮庁舎前にて】

【視察第3日目 委員会室にて】

